

仙林寺だより

NO. 59
編集・発行
松田正貴

行事報告

寺子屋「蔓細工」

誰もが芸術家、自然からの恵み素材の素材が何ともいえない味を生み出します。今回の寺子屋は十七日、「蔦庵」半澤先生を講師に迎え蔓細工を教えて頂きました。私事、会津三島の編み込み細工に魅せられてよりこの機会を待っておりましたが、寺子屋協力員宮内氏のご縁によりこの度の開催となりました。「決まった形など無く誰でも出来るから」の先生の声に励まされ早速製作にとりかかります。まずは型作り、素材はなんと新聞紙のみといたってシンプル、完成の形を想像しながらひたすら丸めます。いよいよ蔓を巻きつけに掛かるとすつかり口数も減り、真剣そのもの、ただ巻くだけといってもそこはセンスが要求されます。天分と



どうか天性のものなのか子供達には無垢な感性があるのでしょうか。大人の作意とは対極にあるものか？「誰もが芸術家、全てが作品」使い勝手を考えてしまふのはこれまた大人のはからい、野暮というものでしょう。「まああるい器に何入れる、まああるい心が入るでしょ

大泉地区愛宕権現祭礼

十八日、地区の若手「若蓮」が中心となって祭礼が開催されました。今年も別当のお役を頂いている関係で祭祀をつとめておりますところ、通り魔的な幼児・児童殺傷事件が毎日のように報道される今日です。「地域力」という言葉が俄かにクローズアップされ

るのも頷けます。地域皆の繋がりを見直し、あらゆる状況の目になって事故や事件を未然に防ぐ力に！との思いが込められた言葉のように感じます。「おやじの会」という全国組織もあるようですが、古くからある「若蓮」も今こそその活動の方向性が求められるのかもしれない。祭礼を縁として地域の繋がりが結実を高め、自ずと地域力は強化されるものでしょう。古来より綿々と伝承される伝統行事は、現代的な役割を見直すきっかけともなるようです。愛宕様の本地は勝軍地蔵、また火防のご利益があると言います。悪魔の手に打ち勝つのも、煩惱の炎を治めるのにも権現様のご縁により頂く、皆で守ってゆこうとする気」が大切なようです。

お寺のインターンシップ



僧侶としての道を歩みたい。真摯な思いにうたれました。田村市の大越裕好氏(五十七歳)が出家の道を志し十九日より当山にて修行をしております。朝の坐禅から始まり朝晩のおつとめや作務(草ひきや掃除)基本的な作法を

身につけます。さしずめお寺でインターンシップです。およそひと月ほどすごした後七月下旬に出家得度式、八月には前総持寺管首坂橋禪師の下で僧堂修行に入ります。しばらくの間境内で作務衣姿を見かけるかと思えますが、決して怪しい者ではありません！ご安心下さい。ところどころでいゆる二〇〇七年問題といわれる団塊の世代大量退職、第二の人生の過ごし方に迷うところ、この度のご出家がその選択肢の一つとして道筋を示すきっかけとなればまた意義深いものでしょう。還暦を目前にしたお小僧さん、どうか暖かい目で見守って頂ければと思います。

ひつとと「普請(ふしん)」

仙林寺では現在(二〇〇六年六月)庫裡(くり)を普請中です。大工さんの槌(つち)音の響く中ででの生活が二ヶ月ほど続い

ております。さて、この普請と言う言葉も実は禅の用語で、普く大衆(修行の仲間)を請する(集める)事、またお寺の堂塔建築等、労役に従事してもらう行為を言ったものです。永平寺でも朝食の後普請鼓(ふしんく)が打ち鳴らされ回廊掃除の始まりを知らせます。朝の静寂を打ち破る気迫の音声が今も耳に残ります。ところで、今の建築技術も日進月歩、「槌音が響く」と言ってもピンとこない方も居られましょう。槌とは金槌、いわゆるゲンノウの別称です。このゲンノウ漢字で書くと玄翁、何やら曰くありげなお名前、白い口ひげをたずさえた富岡鉄斎ばりのお爺さんをイメージしてしまうのは私だけではないでしょう。実は当たらずといえども遠からじ、元を辿れば禅のしかも曹洞宗のお坊さん、もつと言えればご当地熱塩加納にある示現寺が改宗された際のご開山の名前からとつたものでした。正式名、玄(源)翁心昭がその人。その昔、三国に亘って災いをもたらした妖狐が鳥羽上皇の御命をうかがわんとする時、かの陰陽師安倍泰成に調伏させられた、その狐が都から那須野へと逃れるも遂に三浦の介、上総の介の矢の下に射伏す。しかしながらその執心は姿を石に変えながらもなおも残り、旅人に悪さをし続けた。ここを通りかかった名僧玄翁はその殺生石と呼ばれる石を一喝のもとに叩き割り、遂に成仏と相成った。謡曲「殺生石」の元ともなる九尾の狐伝説です。この時和尚が石を砕くの用にいた金槌の形状から、大工道具「玄翁」の呼び名が生まれたそうです。またその槌面の膨らんだ片側の形状は木の面と同じにする為であり、その仕上がりは「木殺し」というのだそうです。事はお寺の庫裡、物騒なネーミングは一先ずお休み。ここは普請鼓の響きも高らかにまずお休み。ここは普請心を得る普請にあたらば、護法神の導きで腕利きの職人さんは普く請されるものなので